

この法門出現せば、正法・像法  
に論師・人師の申せし法門は、皆、  
日出で後の星の光、巧匠の後に拙  
きを知るなるべし。この時には、正  
像の寺堂の仏像・僧等の靈験は皆き  
えうせて、ただこの大法のみ一闇浮  
提に流布すべしとみえて候。各々は  
かかる法門にちぎり有る人なれば、  
たのもしとおぼすべし。

(御書新版2014ページ・御書全集1489ページ)

### 通解

この法門（教え）が出現するならば、正法時代や像法時代に論師や人師が説いた法門は、どれも、日が出た後の星の光のようなものであり、名匠が出た後に（以前のもの）拙さが分かるようになるだろう。

この時には、正法・像法の寺院の建物にある仏像や僧たちの利益は全て消え失せて、ただこの大法だけが全世界に流布するであろうと説かれている。

あなた方は、このような法門に縁ある人のだから、頼もしく思いなさい。

## 「太陽の仏法」で飛翔の一年を

### よくわかる解説

みなさんこんにちは、サンです！ 今年も御書を学んで、朗らかに出発しよう！

今回学ぶ御文は、1278年（建治4年）駿河国（現在の静岡県）の富士方面にある三沢に住む三沢殿へ送られたお手紙です。

御文の前半で大聖人は、正法（仏の教えが正しく行われる）時代と像法（仏の教えが形式化してしまう）時代における教えは、末法（仏の教えの功力が消滅し、実践する人がいない）時代では、真実の仏法が説かれることにより、力を失った拙い教えであることが分かること仰せです。

このことを星の光に例えられ、末法の現代では真実の教えである南無妙法蓮華経が広まって太陽のように輝くことで、他の星は見えなくなるとつづられています。

この大聖人の仏法は、全ての人が成仏し、幸せになれることを説いた希望の教えです。御文の中で「ちぎり有る人」とあるように、このような仏

法に縁し、出あえたことはとても素晴らしいことなんだ。大聖人は、皆が偉大な使命を持って生まれてきたと呼びかけられているよ。一人一人に無限の可能性があって、光り輝いていけるこの仏法は、世界中の人々の心を照らし、今では192カ国・地域に広がっているんだ。

この「太陽の仏法」の実践の根本こそ、日々の勤行・唱題なんだ。真剣に祈る中で、いろんなことに挑戦しようとするエネルギーがたくわえられて、自分自身を輝かせていくことができるよ！

池田先生は、次のようにつづられています。  
「題目は“生命の充電”です。ふだんから充電しておけば、いつでも生き生きと動くことができる。充電していかなければ、いざという時に力が出ないで、負けてしまう。若いうちに題目を生命に染みこませ、充電した人は、一生涯の幸福の土台をつくっているのです」

「太陽の仏法」を学び、実践して、「世界青年学会飛翔の年」を元気いっぱい過ごしていこう！